

成果報告書

地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	有限会社総合劇集団俳優館		
所在地	名古屋市中区栄1-22-17	設立年	昭和61年2月4日
運営主体	有限会社総合劇集団俳優館		
事業目標	子どもたちが主体的に活動でき、さらにのびのびと自由に表現が出来る環境づくりを目標とする。子どもたちが主体となってひとつの作品を作り上げる。子どもたちが表現者となり、学校現場では専門的で扱いにくいであろうミュージカル作品(歌やダンスの入った作品)を作り上げる。作品を作る過程で、例えば「観客を感動させたい」と子どもたちが思ったのであれば、それを目指して作品を作るなど、あくまでも子どもたち主体での作品作りを目指す。		
きっかけ	小学校で2020年度から実施されている新学習指導要領では、「知識及び技能」「学びに向かう力、人間性」「思考力、判断力、表現力」の三つの柱が重視されています。これは、子どもたちがのびのびと自由な発想をもって生きていくために、学校の先生だけでなく、子どもたちが関わる活動に関与する大人全員が注目すべき観点です。また、子どもたちが様々な活動に対して能動的に取り組む機会を継続的に設けることは、学校現場のみではなく地域で総力をあげて取り組むべき課題であると言えます。ただ、部活動における学校や教員の負担は大きく、結果、子どもたちが能動的にのびのびと活動に取り組む環境が作られていないのが現状です。そのため、地域の活動として子どもたちが主体的に活動でき、さらにのびのびと自由に表現が出来る環境づくりを実施していくべきであると考えます。		
団体・組織等の連携	愛知県豊川市を拠点に活動する「小坂井おやこ劇場」に運営協力を仰ぎ、地域の子どもたちとその保護者に向けて本事業参加の呼びかけ、作品発表の際の集客にご協力いただいた。作品発表の際は、参加した子どもたちの学校の校長先生、教頭先生、クラスの担任の先生などにお越しいただくことができた。また、参加した子どもたちの保護者のみならず、地域の皆さんにもお越しいただき、有料公演であったにも関わらず1日で180名の方にご来場いただくことができた。		
活動場所	主に、こざかい葵風館(小坂井生涯学習センター)、美園集会所。 ともに、公営施設。		
活動概要	令和4年9月までに「ワカタケ子どもミュージカル倶楽部事業」参加者を募集・決定する。令和4年10月～令和5年2月に作品制作を行う。3月に、こざかい葵風館集会所にて作品発表を行う。地域で活動する俳優・演出家・音楽家が、作品作りのサポートを行う。		

○本事業による成果

今までお芝居や歌・ダンスを経験したことのない子どもたちが、芸術分野に触れる機会を得ることが出来た。

はじめは親の勧めで参加した子どもたちもいたが、回数を重ねるたびに本人の活動に対する意欲も高まっていった。作品発表間近には、子どもたちのみで自主練習を計画したり、表現方法を子どもたちから提案するなど、意欲的な姿勢をみられることができた。

事業の最後に、参加した子どもたちから「楽しかった」「またこんな機会があったらやりたい」「来年度は集まれるメンバーは自主的に集まって、役を変えてやってみようと思っている」という声をもらうことができた。これまで経験のなかった子どもたちが、お芝居をすることや、セリフ・歌・ダンスを観客に届けることに興味を持ち、表現活動を楽しんでいたことが見受けられた。

また、参加した子どもの保護者からは「子どもがこんなにも熱量をもって取り組んでいる姿を目の当たりにすることが出来た」「家でこっそり練習している姿を見てほほえましかった。」「末っ子のわが子が、この事業では年長で、お兄さんの役割をはたしていると聞いて嬉しかった。」など何うことが出来た。

また成果発表を観に来たお客様からのアンケートを138回収することができた。そのアンケートによると、回答者の全員から「とてもよかった」「よかった」という回答を頂いた。

○児童・生徒への指導に関する工夫

お芝居の経験が無い子どもに多く見られるのが「ダイナミックな表現を恥ずかしがる」ということ。本事業に参加する子どもに、当初経験してほしいと我々が考えていた「自分の中で変化する感情を俯瞰して観察し、表現に昇華すること」がたとえできていたとしても、観客にそれが伝わらなければもったいないことである。「観客に伝わる大ききで表現すること」と「自分の感情を大切に、感情を置いてけぼりにしないこと」の両立に重きを置いた。

演出の指示通りに、ただ形だけ大きい表現をすることは避け、「なぜその声の大ききなのか」「なぜそんな大ききな動きになるのか」ということをひとつひとつ問いかけながら、お芝居を構成していった。

子どもが「新しい表現や、より大ききな表現にチャレンジしている」という場面を見つけたら即座に褒めた。また、子どもが「○○のシーンは△△のような表現(ex.怒った言い方、笑みを浮かべながら、そっと相手に近づいて、など)が良いと思う」という発言がみられたら、まずは肯定し、できる限り子どもたちのアイデアを作品に組み込んでいった。

○運営上の工夫

お芝居やミュージカルに参加したことのない子どもや保護者ばかりだったため、参加するにあたって、基礎的なところから説明する必要があった。主にメールで共有事項を頻繁に連絡した。

稽古場でどんなことをやっているのか不安に思われる保護者もいた。希望があれば、見学も許可した。練習の様子は、メールの文章だけでなく写真や動画を共有することもあった。

愛知県豊川市を拠点に活動する「小坂井おやこ劇場」に運営協力をしていただいた。作品発表の際は、広報活動のお手伝いをいただいた。豊川市の公共施設に置きチラシをお願いしたり、ポスターの掲示を依頼していただいた。また、普段から地域との連携がとれている「小坂井おやこ劇場」に間に入っていただいたことで、子どもたちの通う学校の先生が、本事業に興味を持ち作品発表をご観劇くださった。先生からは「子どもたちが輝ける場を提供する素晴らしい企画」「学校では見せない顔を見ることができた」とお褒めの言葉をいただいた。

○継続的な運営に関する課題・展望

今回、作品発表を地域の皆さんにご観劇いただく際、公演協力費としてひとり200円頂戴した。もう少し高い金額でも良いと感じたため、今後はもう少し徴収して事業にその分反映してもよいと感じた。

参加者は全員ひとつの中学校校区に住んでいたため、練習の際に集まりやすかった。

地域で活動する「小坂井おやこ劇場」と連携がとれたため、練習会場が事務处理的にも金銭的にも抑えやすかった。継続的な運営を考えると、このような既存の地域サークルと連携をとり、両者の目的を照らし合わせながら事業を進めるのは良いやり方ではないと感じる。

今回、我々が得意とする「演劇」を事業の種目としたが、参加者の通う中学校には「演劇部」やそれに準ずる部活動が無かった。そのためもあってか、子どもたちが「演劇」のプレイヤーになる機会がこれまで無かったままスタートした事業であった。ただ、同じメンバーで本事業を継続するのであれば、より深い表現方法の模索や工夫ができると考える。すると、作品のクオリティもあがり、子どもたちはより深い学びや気づきを得られるのではないかと考える。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

参加する子どもも、作品発表をみる子どもや大人も、子どもたちが初めてお芝居をしている姿に感銘を受けることが今回わかった。今後成果発表をする場合は、より多くの人に観客になってもらうことを目指すべきである。

特に、学校の教員が、普段接している児童・生徒の舞台に立つ姿を見ることで、学校現場に生かせるヒントを得ることができるのではないかと考える。成果発表の際は、事前に学校関係者に広く企画を周知すると良い。

また、部活動の地域移行が進めば、教員の教育現場での負担が減り、子どもと接する際のパフォーマンスがあがる可能性がある。空いた時間で、このような事業に参加する子どもたちを観に行き、新たな刺激を得ることが出来るかもしれない。地域の活動に教員が関わり、相乗効果を生めるような計画を立てられると尚良いと考える。

部活動を地域に移行することで、複数の学校の児童生徒が一緒にひとつの目標に向かって挑戦することが出来る場をつくりやすくなる。普段学校で人間関係に悩む子どもや不登校気味の子が本企画に参加し、結果、日々の楽しみを増やすことができたという声を実際に頂いた。放課後、学校ではないところで気楽に活動する場があるということは、非常に意義があるのではないかと感じた。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	小中学生40名
	学校名	豊川市立小坂井西小学校、小坂井東小学校、小坂井中学校
	募集方法	施設の置きチラシ、イベントパンフレット等への折り込み、同一中学校校区内の子どもたちから参加を集うために、地域の小中学校に参加者募集の広報協力を仰ぐ。
指導者	人数等	4名
	募集方法	有限会社総合劇集団俳優館が選んでお声がけし、企画に賛同頂いた、地域で活躍する演出家・俳優。
参加者の移動手段		公共交通機関
活動費用	指導者謝金等	本事業の経費から。
	その他	作品発表の際に観劇されたお客様から公演協力費として、ひとり200円徴収し、活動経費に充てた。
活動財源	会費	なし
	その他	本事業の経費と、作品発表の際に観劇されたお客様から徴収した公演協力費。
スケジュール	基本活動	指導者による演劇に関するワークショップ(発声、身体の動き、等)、作品発表に向けての台本を使った練習。
	年間	令和4年10月～令和5年2月の土日祝日から、1日3～4時間、27日間の練習。令和5年3月4日作品発表本番に向けた仕込み・準備・ゲネプロ。3月5日作品発表計2ステージ。
保険加入等		特になし

【活動の様子（写真添付）】

